

SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日:	令和8年7月8日
事業者名:	フェニックスグループ

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み		関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
環境	・地域の里山（竹林）の荒廃が生物多様性を損なっている課題に対し、NPO等と連携して竹林整備を支援し、地域の生態系保全に寄与している。 ・ICT活用によるペーパーレス化を推進し、紙資源の消費を抑制することで、持続可能な森林資源の利用に貢献している。 ・施設内の省エネ対策を行い、温室効果ガス排出抑制を通じて気候変動による生態系への影響低減に努めている。 ・地域内の異業種・住民連携による循環型ビジネスモデル『コマイルプロジェクト』では、地域内の家庭等から排出される生ごみを回収・堆肥化し、その堆肥を用いて栽培した農作物を生産・販売するサイクルを確立している。		⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに、⑫つくる責任 つかう責任、⑮森の豊かさ も守ろう	・竹林整備 実施頻度・・・年1回 2010年～16年間継続 ・ICT活用によるペーパーレス化 年間約55,000枚のペーパーレス化を実現 ・施設内の省エネ対策 老人保健施設サンバレーかかみ野 省エネ改修 電力使用量及び電気料金を前年比大幅削減 ・地域内の生ごみ堆肥化 地域内の家庭等から排出される生ごみを回収・堆肥化し、その堆肥を用いて農福連携で栽培した農作物を生産・販売するサイクルを確立	指標	・竹林整備 実施頻度と継続年数 ・ICT活用によるペーパーレス化 紙使用量の削減 ・施設内の省エネ対策 電力使用量の削減 ・地域内の生ごみ堆肥化 家庭生ごみ由来の堆肥量
					目標	・竹林整備の数値目標 2030年まで継続して年1回実施 ・ICT活用によるペーパーレス化の目標 紙使用量を前年比2%削減 ・施設内の省エネ対策 電力使用量を前年比1%削減 ・地域内の生ごみ堆肥化「コマイルプロジェクト」 2030年までに家庭生ごみ由来の堆肥量100%増
社会	・シニア人材の活躍 高齢スタッフが、単に就労を目的とするだけでなく、働きながら社会参加することによる社会貢献、心と身体の健康増進、安全衛生意識の強化、生きがいづくりの側面を重視しながらその働き方を全面的に支援。 ・子育て支援と女性、若者の活躍 託児所を開設し「託児サービス利用料のポイント制」を導入（勤務形態や資格、シフト貢献度をポイント化し、点数に応じて利用料を減免する仕組み）等。 ・持続可能な共生コミュニティ「GOZAREプロジェクト」 高齢者、子ども、障害者、外国人など、あらゆる人々が互いに支え合い、役割を持って輝ける「地域共生社会のハブ（拠点）」として『GOZAREプロジェクト』を推進。		⑤ジェンダー平等を実現 しよう、⑧働きがいも経済成長 も、⑪住み続けられるまちづくりを	・シニア人材の活躍 介護助手雇用数 現在22名 介護助手体験会 2018年より年1回 ・子育て支援と女性、若者の活躍 企業主導型保育施設（及び学童保育）の運営 年間延べ利用数2576名（518名） - ライフデザインセミナー・出会いの場イベントの実施 年1回 ・「GOZAREプロジェクト」 地域住民を含めたミーティング 週1回（これまで約200回開催） - 地域交流イベント 2022年～年6回	指標	・シニア人材の活躍 介護助手体験会の実施頻度と継続年数 ・女性、若者の活躍 企業主導型保育施設の3月登録数、イベントの実施頻度と継続年数 ・GOZAREプロジェクト イベントの実施頻度と継続年数
					目標	・シニア人材の活躍 介護助手体験会を、2030年まで継続して年1回実施 ・女性、若者の活躍 企業主導型保育施設の3月登録数を定員80%以上 - イベントの実施頻度と継続年数 ・GOZAREプロジェクト 住民参加型イベントを、2030年まで継続して年3回以上実施
経済	・医療・福祉現場のDX化を積極的に推進 ICTを活用した記録業務の効率化および多職種間のリアルタイム情報共有システムを導入。 ・コミュニティカフェを運営し、地元クリエイター作品の展示販売スペースや多世代交流の場の提供を通じて、地域社会の活性化と『誰もが支え合える街づくり』を目指し、持続可能な地域運営モデルの確立に努めている。 ・地域内の異業種・住民連携による循環型ビジネスモデル『コマイルプロジェクト』を推進 岐阜県内13の団体及び個人（社会福祉法人、NPO法人、農業団体、環境保全団体など）が連携し、家庭生ごみの堆肥化を起点に、農福連携での農作物の生産販売による地域内経済の活性化に貢献している。		⑨産業と技術革新の基盤 をつくろう、⑪住み続けられる まちづくりを、⑰パートナー シップで目標を達成しよう	・医療・福祉現場のDX化 独自の専用アプリを開発し、ペーパーレスで完結するヒヤリハット報告オンライン化を実現。 ・コミュニティカフェ 地元クリエイター作品の展示販売、地域住民のサークル活動、交流の場などを提供。 直近1年間の利用実績 延べ6,479名 ・循環型ビジネスモデル『コマイルプロジェクト』 連携団体及び個人数 13 家庭生ごみ堆肥サポーター 40世帯 完熟堆肥 製造量 約3,000L /年	指標	・医療・福祉現場のDX化 紙使用量の削減 ・コミュニティカフェ 年間利用実績 ・循環型ビジネスモデル『コマイルプロジェクト』 連携団体及び個人数 家庭生ごみ堆肥サポーター 完熟堆肥 年間製造量
					目標	・医療・福祉現場のDX化 紙使用量を前年比2%削減 ・コミュニティカフェ 年間利用実績を前年比5%以上増加 ・循環型ビジネスモデル『コマイルプロジェクト』 連携団体及び個人数を前年比10%以上増加 家庭生ごみ堆肥サポーターを前年比20%以上増加 完熟堆肥 年間製造量を前年比20%以上増加
ガバナンス	チェック					
		SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている（PDCAサイクル等）。 ＜具体的な内容を記載＞ 当法人では、理事長直轄の「地域共生社会推進室」を設置し、SDGs達成に向けた全社的なガバナンス体制を構築している。 経営方針を全職員へ浸透させるため、研修や朝礼等での定期的な共有を徹底している。 具体的な取組については、推進室が司令塔となり、部署を横断して目標進捗を管理。毎月の会議にて各部署の活動報告と課題共有を行い、PDCAサイクルを回すことで、組織一丸となって目標達成を目指している。 また、これらの取組は公式HP等で対外的に公表し、ステークホルダーとの信頼関係構築に努めている。				
		SDGsの達成に向けた重点的な取組みをホームページ等で対外的に公表している。 公式HP等で公表： https://phoenix-g.jp/community_relationship				